

創立 40 周年記念講演会報告 「日本におけるモグラ類の多様性

と自然環境」

名古屋支部 脇田 剛

11月3日(祝・水)に、創立40周年記念講演会が開催された。講演内容を、以下に記述する。2時半から質問応答を含めて2時間20分程、参加者は38名。

【研究に至る過程】モグラとの出会いは、進学した信州大学近くの河川敷で見つけたヒミズの死体から始まる。大学農学部のある伊那谷では、低地から2000m程までの複雑な自然環境の中で、多様なモグラ類が生息している信州の自然に魅せられて研究を行った。更に、2000年代「なごや生物性多様センター」に勤務してから見たのは、大都市と接する劣化した環境の中で生きているヒミズであり、名古屋城外堀とその周辺で生き残っているコウベモグラだった。2種とも絶滅の危機に瀕する中を、たくましく生きている姿が目映った。

【モグラの分布】真無盲腸目のモグラ科に属するものをモグラ類と呼ぶ。名古屋市にはヒミズ、コウベモグラの2種、愛知県には更にミズラモグラ、アズマモグラの2種が加わり4種、そして長野県には更にヒメヒミズを入れた5種が生息していることが分かっている。



▲モグラなどの生活型の多様性

【モグラの特徴】長い爪をもち耳介の発達が悪い。尾は短くて前あしが大(シャベル型)で、吻端は可動性、そして地下性(ヒミズは半地下性)である。

モグラの多様性の原因は、大きな山塊が乱立して複雑な地形がつくられていることにある、と考えられる。

【モグラの絶滅危惧種】日本はモグラ大国といわれるが、ミズラモグラ(環境省:準絶滅危惧・愛知県:絶滅危惧1A類)アズマモグラ(愛知県:絶滅危惧II類)コウベモグラ(名古屋市:絶滅危惧II類)ヒミズ(名古屋市:絶滅危惧1B類)の4種が絶滅危惧種である。近年耕作地の減少や都市化による緑地の消失、縮小、分断、乾燥などによって減少の一途をたどっている。

日本の多様な自然を背景に生き残ってきたこれらの奇妙な、そして愛すべき動物が今後も存続できるように、豊かで多様な自然環境を残していきたい。

【愛知県での今後のモグラ類調査・研究トピックス】

- ① 県内におけるモグラ分布図の作成(特にアズマモグラ)
- ② 幻のモグラ・ミズラモグラの探索
- ③ 長野県との県境域に愛知県では未確認のヒメヒミズは生息するのか?
- ④ 愛知県のコウベモグラに大型化する個体群が存在するのはなぜか?

※お詫び

川田伸一郎氏(国立科学博物館動物研究部哺乳類担当)から野呂達哉氏(四日市大学環境情報学部准教授)に講師が変更になりました。